

令和6年2月27日

保護者 様

長与町立長与南小学校
校 長 大島 尚之

令和5年度 学校評価の公表について（お知らせ）

向春の候 皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本校の教育活動に対しまして御理解と御支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、児童の学校生活をより豊かで充実したものにするために、学校の教育活動の改善を目的とした学校評価を本年度も実施しました。

まず、2学期末に、児童の実態や保護者の皆様の思いや願いを把握するために、それぞれにアンケート調査を行いました。保護者の皆様からは、児童数634人に対して576の回答をいただきました。多数の御協力に感謝申し上げます

次に、この（アンケート結果）「①児童アンケート集計結果」「②保護者アンケート集計結果」を全職員で真摯に受け止め、本年度の教育活動全般の評価「③教職員による自己評価」を行いました。この評価結果は、保護者の皆様への公表に先立ち、学校運営協議会の外部委員の皆様にご提示し、その妥当性について御精査いただき、「④学校関係者評価」として御意見を頂戴しております。

つきましては、前述の①～④の資料に、「⑤いじめ問題に対する対応状況の評価」を加えたものを本年度の学校評価として下記のとおり公表いたします。本日、本校のホームページにおいても公表いたしております。

<学校評価公表資料>

① 児童アンケート集計結果	2 ページ
② 保護者アンケート集計結果	3 ページ
③ 教職員による自己評価	4～6 ページ
④ 学校関係者評価	7～8 ページ
⑤ いじめ問題に関する対応状況の評価	9 ページ

なお、学校評価を実施して以下の重要性を改めて確認できましたので、保護者の皆様と共有、そして協働できればと存じます。本校では、今後も学校評価を継続的に実施し、教育活動の改善を図っていきたいと考えております。今後とも御協力をお願いいたします。

- 学校と家庭は、信頼関係を築き、お互いに何でも話せる環境をつくる。
- 学校と家庭は、それぞれの役割を自覚し、子どもを共育するという認識をもつ。
- 学校は、多くの方の意見に耳を傾け、信頼される学校を創っていく。
- 学校は、児童や保護者の願いを知り、その実現のために努力する。

令和5年度

後期児童アンケート 全校集計結果

調査期間 令和5年12月

[4 : よくあてはまる 3 : ややあてはまる 2 : あまりあてはまらない 1 : まったくあてはまらない]

番号	評 価 項 目	全学年合計（人）				
		平均点	4	3	2	1
1	学校は、楽しい。	3.71 (3.77)	452	133	14	4
2	仲の良い友達がいる。	3.89 (3.9)	558	30	11	4
3	クラスに、いじめはない。	3.36 (3.37)	354	157	44	48
4	先生や友だちに元気よくあいさつをしている。	3.58 (3.61)	385	188	23	7
5	そうじはまじめにやっている。	3.69 (3.69)	434	156	10	3
6	授業中は集中して学習に取り組んでいる。	3.66 (3.69)	420	166	14	3
7	わからないときは質問している。	3.3 (3.44)	299	217	56	31
8	家での学習はしっかりやっている。	3.68 (3.77)	466	93	31	13
9	本はよく読んでいます。	3.22 (3.42)	294	170	117	22
10	体育の時間は体を動かすことができて楽しい。	3.73 (3.79)	464	121	15	3
11	朝ご飯を毎日食べている。	3.88 (3.88)	557	23	20	3
12	マスクの着用や手洗い、消毒・うがいなど病気にならない生活を心がけている。	3.6 (3.77)	405	165	22	11
13	先生の教え方は、わかりやすい。	3.8 (3.86)	509	74	13	7
14	先生は相談にのってくれる。	3.83 (3.84)	513	80	5	5
15	先生は悪いことをしたときは、きちんとしかっている。	3.88 (3.87)	544	49	5	5

令和5年度 後期 保護者アンケート 集計結果

調査時期 令和5年12月

アンケート回収率 91% 576/634

番号	評価項目	平均ポイントと実数（人）					
		平均点	4	3	2	1	無
1	学校は、学校便りや学年・学級便りなどで、教育目標や子どもの学習・生活の様子を家庭へ知らせている。	3.71 (3.72)	417	149	8	1	1
2	学校は、PTAや地域、関係団体との連携を図り、協力的である。	3.55 (3.56)	327	235	8	2	4
3	学校は、子どもに分かる授業づくりに努め、学力向上に取り組んでいる。	3.60 (3.62)	358	204	11	1	2
4	学校は、いじめの実態把握や早期発見に努め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	3.44 (3.42)	268	278	17	2	11
5	学校は、子どもや保護者の連絡・相談に適切に対応している。	3.65 (3.64)	383	178	11	2	2
6	学校は、校舎内外の環境美化・整備に努めている。	3.40 (3.38)	270	263	40	2	1
7	学校は、体育の時間などの活動をとおして体力づくりに努めている。	3.57 (3.6)	340	225	10	0	1
8	学校は、マスクの着用や手洗い・消毒など指導や、三密の対策など子どもの健康に関する対応（コロナウイルス感染拡大防止）に努めている。	3.52 (3.53)	319	235	16	3	3
9	お子さんは、毎日朝ご飯を食べるなど規則正しい生活を送ることができている。	3.71 (3.71)	426	131	15	2	2
10	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。	3.47 (3.51)	326	203	35	10	
11	お子さんは、進んで家族や地域の方に挨拶している。	3.28 (3.22)	236	269	64	5	
12	お子さんは、家庭で学習する習慣が身についている。	3.25 (3.22)	244	245	73	14	

		平均点	4	3	2	1
1	1-1 【広報活動の充実】日頃から保護者に学年通信、学級通信等を通して、学校の教育方針が理解されるよう努力を行った。	3.39 (3.5)	16	18	2	0
2	1-2 【開かれた学校づくり】家庭への連絡やPTA(授業参観や懇談会)を通して、家庭や地域との連絡を密にし、開かれた学校づくりに努めた。	3.38 (3.6)	16	19	2	0
3	1-3 【特別支援教育】特別支援学級や通級指導教室へ通う児童、全ての児童の実態の実態や困り感を理解し、指導の改善や充実に努めた。	3.45 (3.6)	23	22	2	0
4	1-4 【教育相談】日頃の児童観察や「なかよしアンケート」、家庭からの連絡などを通して児童の実態などを把握し、適切に対応するように努めた。	3.56 (3.6)	26	15	2	0
5	1-5 【情報管理】児童や保護者・家庭環境などに関する各種の情報の取扱について細心の注意を払った。	3.87 (3.8)	40	6	0	0
6	1-6 【やりがいのある職場づくり】学校教育目標を基軸として、協働性、同僚性により、やりがいのある職場になるように努めた。	3.5 (3.4)	25	19	2	0
7	1-7 【働きやすい職場環境】協働性・同僚性、または環境面などから本校は働きやすい職場環境だと感じる。	3.49 (3.3)	25	20	2	0
8	2-1 【教科指導の充実】学力向上のために教材研究に努め、明確な指示や発問の工夫などによるわかりやすい授業の展開に心がけるなど、授業改善に努めた。	3.43 (3.5)	18	21	1	0
9	2-2 【学習環境・学習規律の統一】わかりやすいめあてを板書し、子供に学習のねらいを明確に提示することができた。	3.24 (3.3)	14	23	4	0

10	2－3【学習環境・学習規律の統一】まとめや振り返りの時間を位置づけ、本時のめあてに対するまとめを行うことができた。	3.26 (3.1)	9	27	5	0
11	2－4【基礎学力の定着】ドリルやながよ検定テキストの計画・継続的な指導を通して、漢字、計算の習熟を図った。	3.47 (3.5)	16	12	2	0
12	2－5【基礎学力の定着】家庭と連携して、家庭学習の充実に努めた。	3.45 (3.5)	16	13	2	0
13	2－6【校内研究】校内研究の話し合いの中で、決まったことを実践し、研究全体の具現化に貢献するように努めた。	3.28 (3.2)	12	18	1	1
14	2－7【国際理解】外国語科や外国語活動・総合的な学習の時間などを通して、英語を中心とした外国語、他国の文化などにふれながら国際理解が深まるように努め、指導の改善や充実に努めた。	3.14 (3.1)	8	16	4	0
15	3－1【道徳教育の充実】道徳の全体計画をもとにして、年間指導計画に沿って、週に1時間、心に響く道徳科の授業を展開することができた。	3.08 (3.1)	5	17	3	0
16	3－2【いじめ0・いじめ防止対策】子供の生活の実態把握に努め、いじめ0に向けた日常的な取組を行った。	3.39 (3.6)	15	13	3	0
17	3－3【不登校0】居心地のよい学級、学びがいのある学級を創造し、不登校0に向けた日常的な取組を行った。	2.96 (3.4)	15	3	4	6
18	3－4【あいさつ】顔を見て、元気に大きな声であいさつができる子供の育成を図った。	3.6 (3.6)	29	14	2	0
19	3－5【言葉遣い】日常生活や授業の中で、友達を思いやる言葉遣いについて考える場を設け、指導した。	3.52 (3.8)	24	16	2	0
20	3－6【落ち着いた生活】落ち着いた学級・学校生活を創造するために、正しい廊下歩行や教室移動などの仕方について、指導を行った。	3.56 (3.7)	25	17	1	0

21	3－7【勤労生産的な活動】共働・黙動による清掃活動を行い、美しい学校づくりにつながる心の指導を行った。	3.63 (3.6)	24	14	0	0
22	4－1【基礎体力の向上】体育の授業における運動量を確保し、また外遊びを推奨し、子供たちの体力づくりを促した。	3.5 (3.3)	14	14	0	0
23	4－2【健康教育の推進】「五ザル」や「ノーメディア」などの取組を通して、健康的な生活の充実に努めた。	3.39 (3.4)	14	15	2	0
24	4－3【健康教育の推進】マスクの着用や手洗い、換気、ソーシャルディスタンスの保持など、新しい生活様式を意識した指導ができた。	3.51 (3.6)	22	21	0	0
25	4－4【食育の推進】給食時間や各教科の指導の中で、食の重要性についての指導を行い、食育の推進に努めた。	3.44 (3.7)	16	17	1	0
26	4－5【安全教育の推進】交通安全・不審者対応・防災などに関する指導を継続的に行った。	3.69 (3.7)	25	11	0	0
27	4－6【安全教育の推進】教室環境や教材の保管など安全への配慮は適切に行った。	3.71 (3.5)	29	12	0	0
28	4－7【安全教育の推進】「長与南小学校 生活のきまり」を子供たちが理解し、そのきまりを守った生活が送れるよう、継続的に指導を行うことができた。	3.41 (3.5)	16	23	0	0

④ 学校関係者評価

(学校関係者評価の実施)

1 評価者

○学校運営協議会委員（6名）

- ・運営協議会会長（1名）
- ・主任児童委員（1名）
- ・長与南小校区青少年健全育成会会長（1名）
- ・自治会長（1名）
- ・長与南コミュニティー運営協議会会長（1名）
- ・PTA会長（1名）

2 評価の方法

1月下旬に紙面で教職員による自己評価を説明した。その後、本校の自己評価の妥当性について御検討をいただき、評価者6名全員から紙面で御意見をいただくことができた。

【評価の結果】

- 児童や保護者アンケートの結果の分析に基づいた学校評価の方法は適切である。
- 学校評価の結果は妥当である。

目標	取組の内容	評価	学校評価の妥当性・御意見
心の豊かな心と自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	1 豊かな心の育成 ①いじめ、不登校への適切な対応 ②あいさつと言葉遣い	3	○評価は妥当である→6名
	【御意見】 ・不登校は家庭との連携を密にしてはどうですか。 ・登校時の子が車を止めていただいた運転手さんに礼をしている。 ・あいさつについては、継続して学校・家庭・地域が協力して取り組んでいくことが大切だと感じている。 ・あいさつにおいては徐々に取組が功を奏していると思えるが、全体的な気運の高まりでの進展には、これからも継続的な取組を期待したい。 ・いじめとあいさつについては、かなり改善が見られ、努力の跡が見られる。4でもよい。		
	2 基礎学力の充実 ①教科指導の充実 ②基礎基本の確実な定着	3	○評価は妥当である→5名 ○評価は妥当ではない →1名（4が妥当）
	【御意見】 ・学習については伝統的に満足のものではないか。今後も学力向上に努めていただきたい。 ・子供たちの基礎学力の向上は、日々の授業の積み重ねと学びわかろうとする子供たちの学習意欲の表れであると思う。その姿を維持しさらに向上させようとする先生方の共通実践にさらなる期待をしている。 ・他の地域に比べ、子供たちの学習能力が高いと思う。		
	3 健康安全教育の推進 ①「五ザル」の取組の充実 ②体力向上	3	○評価は妥当である→6名
	【御意見】 ・朝7時前に家を出る子もいる。その中で、朝ご飯を食べさせ登校させるのは大変でしょう。ランドセルも重たいですが、子供たちは頑張っています。1年生の時は泣いていた子も3年生になりはやく歩けるようになっていきます。体力がつくと思います。 ・子供たちなりに努力している様子が伺えます。学校と家庭との調和が大切なので、頼もしく思います。 ・どの項目も重要で五ザルの家庭も取り込んだムーブメントは子供一人一人の生活習慣のステップアップにつながるものと確信します。今後の継続的な取組と学校と家庭双方からの働きかけが必要。		
	4 特別支援教育の充実 ①一人一人のニーズに応じた支援 ②子どもの問題行動に対する組織的な指導の充実	3	○評価は妥当である→5名 ○評価は妥当ではない →1名（4が妥当）
	【御意見】 ・個に応じた教育は、なかなか難しい面もある中、様々な方法を試みて一人一人の可能性を探りながらチームとして組織的に支援を行っていくことは、子供を大切にすることに		

心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

なと思います。 ・何か問題が生じた時の対処が重要です。関係者が一丸となって情報を共有し、英知を出し、対処してください。よく気配りされているのが理解できます。 ・前に比べると、支援学級の子供は充実した教育を受けていると思う。		
5 国際化への対応 ①外国語・外国語活動の充実 ②国際理解教育の充実	3	○評価は妥当である→6名
【御意見】 ・小学校であるから実現できる担任とALTのTT授業はコミュニケーション能力の向上に大きな力となると思います。小さい時に身につけた力は生活の中でも生きた力として使っていくことができます。楽しく学び、使える力が備われば、グローバルな視点で他者理解をする観点からも大切にしたい。		
6 教育環境の整備 ①黙々掃除（共働・黙働）による美化活動の充実 ②安全教育の推進	3	○評価は妥当である→6名
【御意見】 ・校内の美化に子供たちの黙々とした清掃活動を実現化した取組は素晴らしいと思います。楽しく清掃活動をする子供たちの姿を見学したいものです。 ・安心安全について、子供自身一人一人が自分の身を守るという自覚が進んでいるのではと思います。関係周囲の方のお陰だと思ひます。 ・集団登校で異学年の子供が助け合っているところを見かける。特に1年生は上学年に見守られていると感じる。		
7 教職員の資質向上 ①指導力の向上 ②校内研修の充実	3	○評価は妥当である→6名
【御意見】 ・よりやりがいのある職場、働きがいのある職場を目指して充実した教員生活を送ってください。 ・あたたかいお気持ちで児童の成長を見守っていただきたいと思ひます。十分にそれを感じております。 ・教員は教える喜びを味わえることが第一であろうと思ひます。子供の目の輝きを楽しみに一つ一つの教材を価値あるおもしろみのある内容へと授業改善への取組を協働して行い、さらに子供たちの大好きな先生になってほしいと願っています。		

【学校関係者の皆様の教育活動に対する御意見】

- 先生方の記述にあるように学期末の子供たちと向き合うことができる働き方改革の実現は、学校が長年抱えてきた課題を少しずつであるが解決しようとする機運が高まっている上、組織的に動いている証拠であると思ひます。旋風を巻き起こしてほしいものです。
- 本を読まない児童が目立つ気がします。図書室の利用について全体で検討してはどうでしょう。
- 分析等まとめるのは大変だったと思ひます。働き方改革の中、ここまで必要かと感じる部分がありますが、先生方がこの内容をしっかりと認識した上で、学級経営に取り組み、この分析がいかされることを願っています。
- これからは、地域、学校、家庭が連携して子どもを見守ることが大事だと思ひます。いつでも何かあったら協力します。
- 教職員アンケートの不登校0に向けた取組の評価の低さに対して、行った助言、指導、改善を知りたい。この項目は、子供が安心して登校するためにとっても重要なことだと考える。
- 教職員間の連携、信頼、助け合いは素晴らしいと思ひます。直実に成果を上げこれからも精進してください。世の中に完全はないので評価点3としましたが、総合的に判断して全て4であっていいと思ひます。

いじめ問題に関する評価の実施状況

評価項目	評価観点等の内容	評価	分析及び改善策
1 日頃の児童生徒理解	・細やかな児童観察と児童の意識調査を継続し、一人一人が安心して学校生活を送ることができるように努める。	3	・担任の日常観察に加えて、生活指導部会(月1回)、同学年会の中で児童の生活実態の把握に努めた。 ・毎学期、全児童を対象に「学校生活アンケート」を実施。日頃の児童観察と併せてアンケートへの記述について詳しく聞く個人面談を行い、学校が安心して生活できる場であると全児童が認識できるように努めてきた。今年度はタブレットを用いた「こころの記録」の活用も取り入れた。次年度もこうした調査を継続し、児童理解に努めていく。
2 未然防止や早期発見	・細やかな児童観察と児童の意識調査を継続し、いじめの実態把握に努め、児童が発する信号を見逃さないよう早期発見に努める。	3	・児童へのアンケートに加え、個人面談で保護者との情報共有を図り、いじめの早期発見に努めた。その結果、いじめに関する報告や家庭から交友関係に関する相談が数件あり、初期対応に繋がった。今後も日常的な児童の観察を強化し、家庭とも協力して未然防止、早期発見に力を入れていく。
3 いじめへの迅速適切な対応	・いじめが生じた際、学校全体で迅速に対応できる体制を整備する。	3	・いじめ事案が発覚した場合、すぐに担任、同学年職員、関係職員、管理職も加わり事実確認を行った。その後、当該児童への指導はもちろん、保護者への連絡を行い、家庭と連携した指導を行い、解消するまで観察に努めた。
4 組織的な取組	・いじめが生じた際、学校全体で組織的に対応できる体制を整備する。	3	・事案が発生した時にはすぐにケース会議を開き、対応に当たった。発生したいじめの事例や、問題解決に向けた取組の経緯も全職員で情報共有を図った。その結果、学校全体で対応するという職員の意識が高まり、多くの目で見守ることができた。今後も、いじめを許さない学校づくを、全職員で共通実践していく。
5 方針等の共有(保護者・地域)	・いじめの対処方針や指導計画を明確にする。 ・方針や取組を保護者、地域と共有し、理解や協力を得る。	3	・今年度も本校の「いじめ防止基本方針」を全職員で共通理解するとともにホームページでも公開し家庭や地域にも周知した。 ・学校運営協議会の際に、本校の教育方針を説明し、地域にも協力をお願いした。今後も継続して、本校のいじめ防止に関する基本方針への理解と協力を得るよう努めていく。

※ 評価(4. 3. 2. 1)